

**令和2年度「中小企業・小規模事業者支援サイトのAI活用による経営課題解決促進の実証研究事業」
調査報告書**

令和4年3月
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

目次

1. 事業目的

- 1.1 事業の背景
- 1.2 事業目的

2. 取り組み内容

2.1 事前調査フェーズ

- 2.1.1 データの確認・リストの作成
- 2.1.2 ユースケースとユーザーニーズの整理
- 2.1.3 技術の事前調査

2.2 要件精査・スコープ決定フェーズ

2.3 プロトタイプ構築フェーズ

- 2.3.1 ミラサポconnectデータベース
- 2.3.2 APIゲートウェイ機能（公開API・取得API）
- 2.3.3 データの開示範囲・更新に関する管理機能（認証/認可機能）
- 2.3.4 ポータル（事業者用/支援者用）
 - 2.3.4.1 ポータル（事業者用画面推移）
 - 2.3.4.1 ポータル（支援者用画面推移）

2.4 データの一元化に向けた統一基準について

3. 課題解決事例の成果

4. 次年度に向けたプロトタイプおよびその構築体制の改善点

1.事業目的

1.1 事業の背景

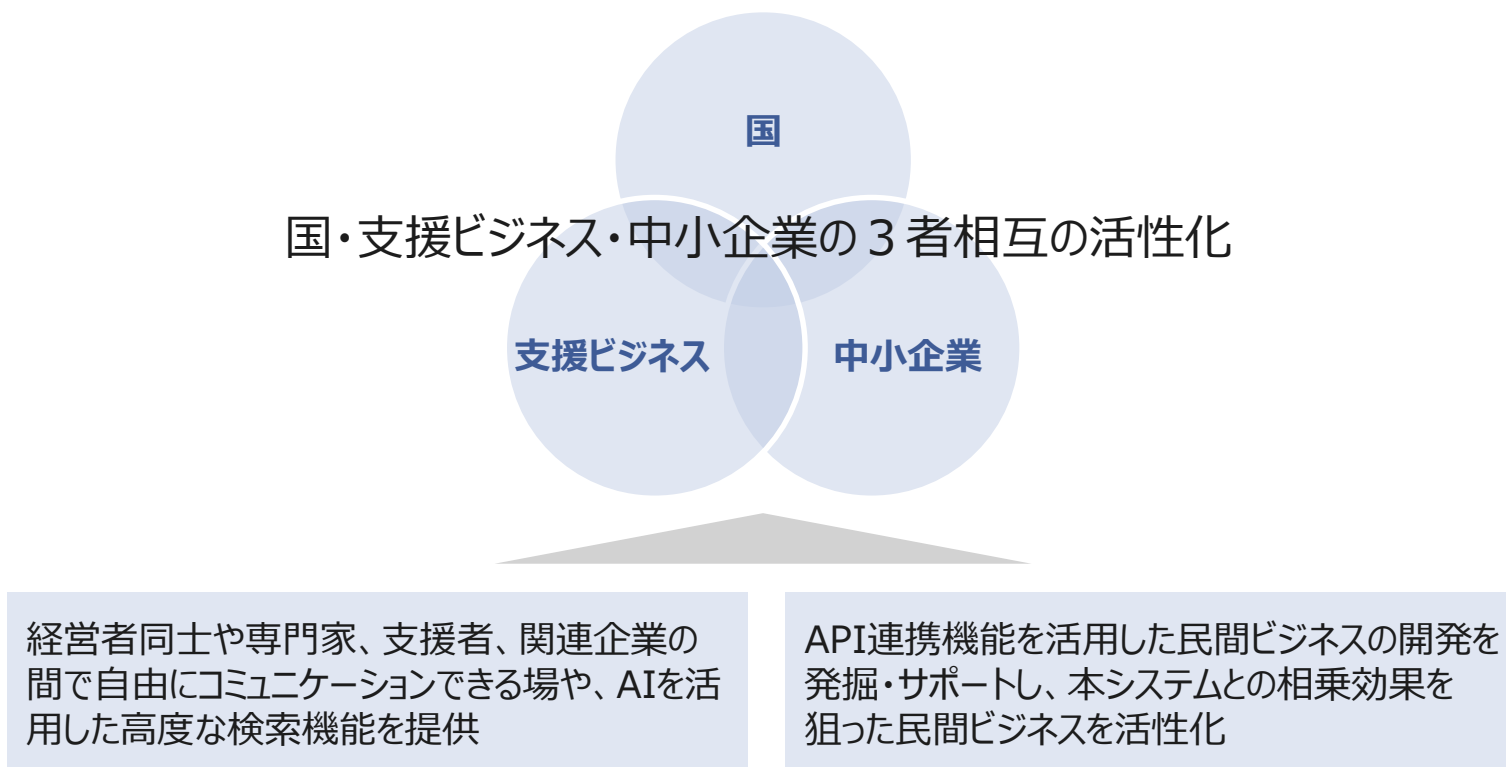
企業の約99.7%を占める中小企業は、日本経済の発展に欠かせない存在である一方、技術者の高齢化や後継者の不在、資金不足等の様々な経営課題を抱えており、廃業する中小企業数は年々増加傾向にあります。

さらに、近年では新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来の系列的取引に基づく市場は急速に縮小しており、多くの中小企業がコロナ禍への対応や事業の再構築に早急に取り組まねばならない状況に追い込まれています。

1.2 事業目的

本事業は、ミラサポplusの機能を大幅に拡張するプロトタイプ（ミラサポconnect）を構築し、中小企業庁の施策の紹介に加え、経営者同士や専門家、支援者、関連のベンチャー企業などの間で、直接、自由にコミュニケーションができる場やAIを活用した高度な検索機能を提供いたします。また、本プロトタイプのAPI連携機能を活用した民間ビジネスの開発を発掘・サポートし、積極的に連携することで、本システムとの相乗効果を狙った民間ビジネスの活性化を図り、国、支援ビジネス、中小企業の3者相互の活性化を最大限図ることを目的といたします。

本事業の目的



2.取り組み内容

2 取り組み内容（本事業の実施内容）

「(1)事前調査」、「(2) 要件精査・スコープ決定」、「(3)プロトタイプ構築」、「(4)検証・リリース」、「(5)報告書の作成」について下記内容を実施いたしました。

本事業の実施内容

1. 事前調査

- ✓ 事前調査では、中小企業庁様の協力を得ながら、①データの確認・リストの作成、②ユースケースの整理、③ユーザーニーズの確認、④技術の事前調査、⑤データ収集・分析を実施いたしました。

2. 要件精査・スコープ決定

- ✓ 要件精査・スコープ決定では、事前調査の内容を元にし、要件精査を行ったうえで、アジャイル開発に向けて本事業の実施内容とスコープを明確に決定いたしました。

3. プロトタイプ構築

- ✓ 別途行われる、本システムを活用した官民コミュニティの組成や民間サービスの発掘・開発支援を行うプロジェクトと密に連携し、アジャイル開発手法を用いてプロトタイプ構築を実施いたしました。

4. 検証・リリース

- ✓ プロトタイプとして構築した内容が事業目的に資するかどうかについて、検証項目を中小企業庁様と協議し、決定したうえで妥当性検証を行いました。

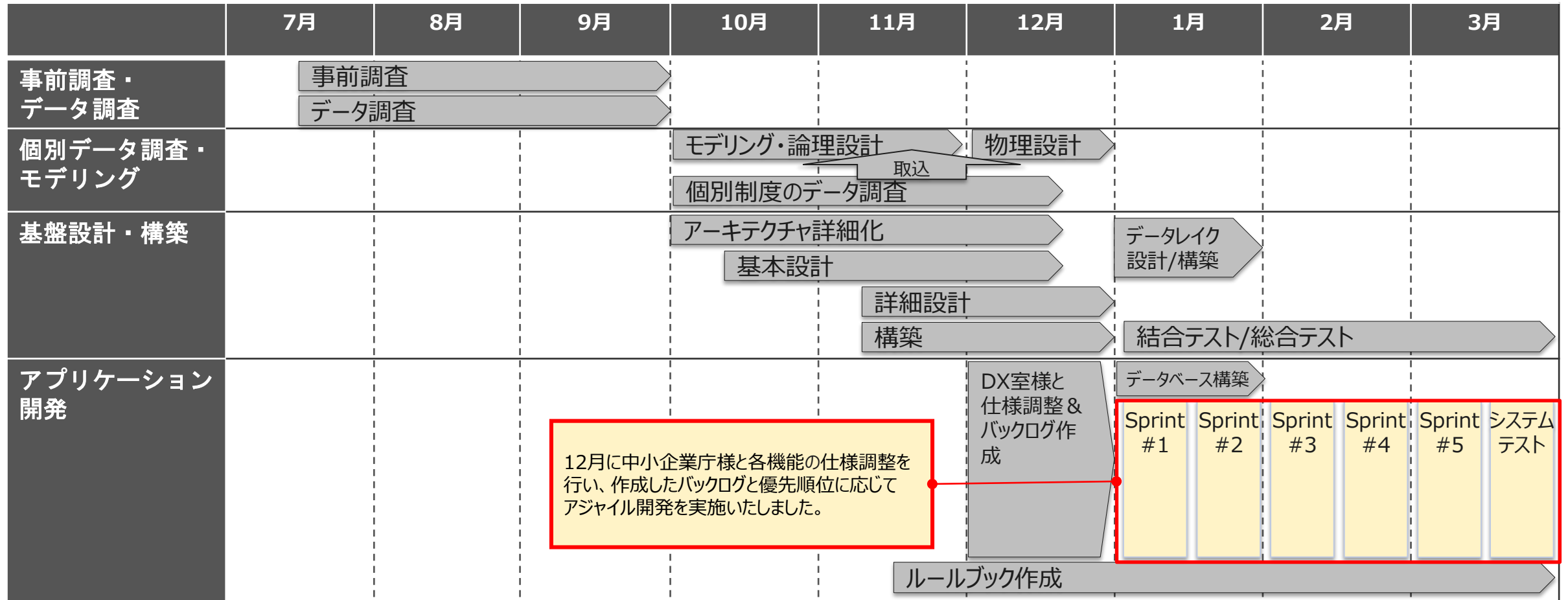
5. 報告書の作成

- ✓ 事業で取り組んだ内容、課題解決事例の成果、次年度に向けたプロトタイプやその構築体制の改善点に関する提案についての報告書を作成いたしました。

2 取り組み内容（本事業の実施スケジュール）

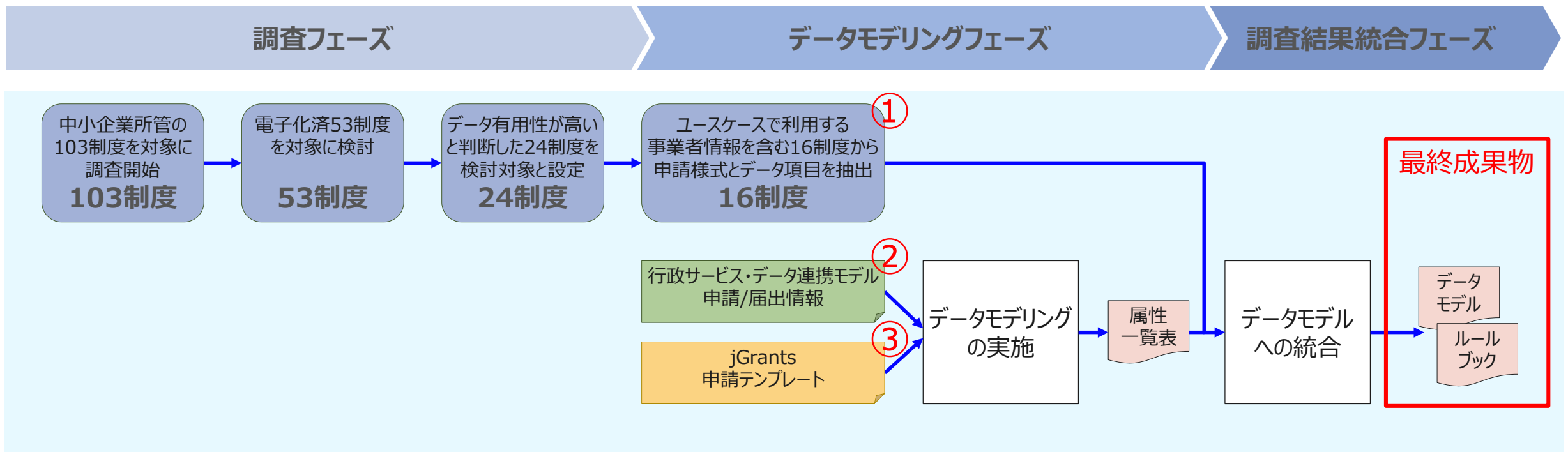
本事業は7月中盤に事前調査フェーズを開始し、約8.5か月の限られた期間において、事前調査を実施のうえ、中小企業庁様と協議のうえ、合意したバックログと優先順位に基づきアジャイル開発にてプロトタイプを構築しました。

本事業の実施スケジュール



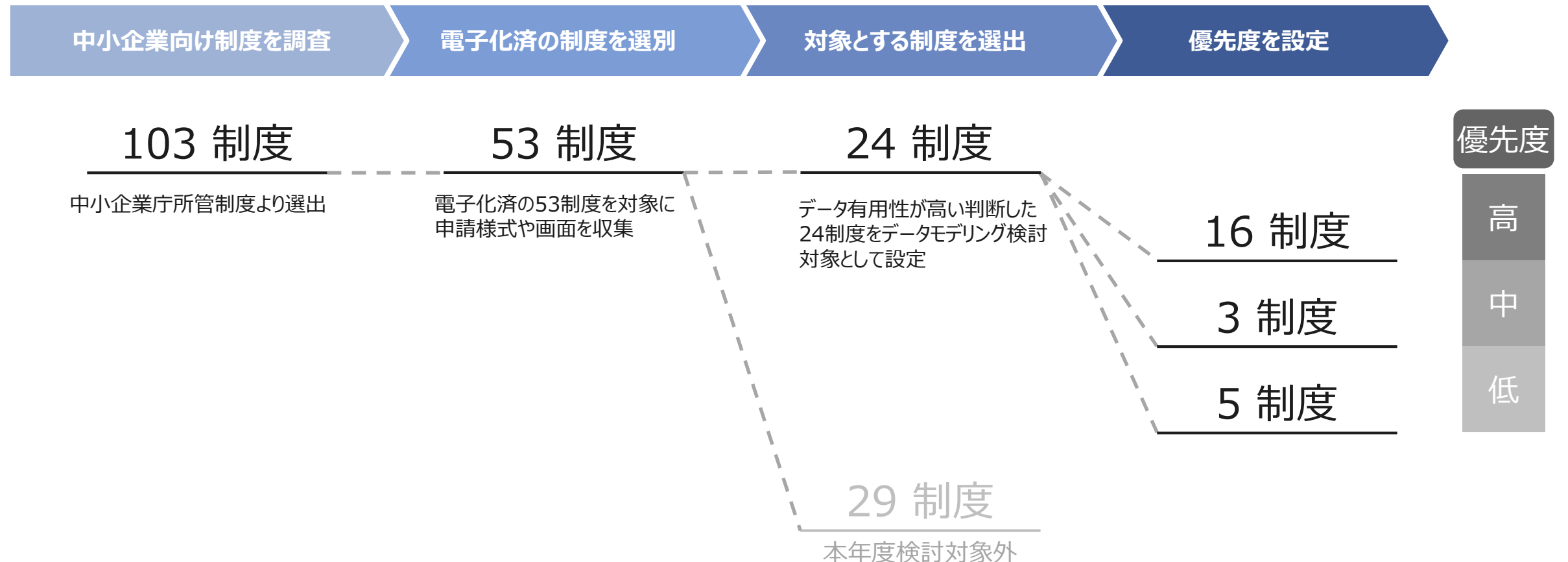
2.1.1 データの確認・リストの作成

「データの確認・リストの作成」では、下記に示す3つのフェーズを経て、中小企業庁が所管する制度情報に関する標準データモデリングの検討を実施いたしました。最終成果物としては「データモデル」と「ルールブック」を作成いたしました。



2.1.1 データの確認・リストの作成

「調査フェーズ」では、中小企業庁所管制度のうち、電子化済である53制度の中から、データ有用性が高いと判断した24制度についてデータモデリング検討対象として優先度を設定しました。



2.1.1 データの確認・リストの作成

データモデリング検討対象の24制度のうち16制度を、3段階での優先度“高”として設定しました。優先度の選別理由および制度の内訳を下図に示します。

【優先度の内訳】

優先度	制度数	選別理由	制度の内訳
高	16	ユースケースで利用する事業者情報を含む制度	・【令和元年度補正】持続化補助金（一般型） ・【令和3年度】JAPANブランド育成支援等事業 ・【令和3年度】戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業） ・【令和2年度第3次補正】事業再構築補助金 ・【令和2年度第3次補正】ものづくり補助金 ・中小企業支援プラットフォーム事業（ミラサポplus） ・【令和2年度第3次補正】事業継承・引継ぎ補助金 ・【令和3年度】事業継承・世代交代集中支援事業（事業継承補助金） ・【令和2年度第3次補正】持続化補助金（低感染リスク型ビジネス枠） ・【令和3年度】ものづくり・商業・サービス高度連携促進事業費 ・【令和3年度】商業・サービス競争力強化連携支援事業（サビサポ事業） ・中小企業・小規模事業者ワンストップ総合支援事業（よろず支援拠点事業） ・経営力向上計画の申請 ・中小企業支援プラットフォーム事業（専門家派遣システム） ・事業継続力強化計画の申請 ・商工会等の経営発達支援計画の認定申請
中	3	中小企業支援者情報を含む制度	・情報処理支援機関 ・中小企業支援プラットフォーム事業（認定支援機関システム） ・中小企業診断士システム
低	5	その他有用性があると判断した制度	・【令和3年度】中小企業等連携組織対策費事業（中小企業組合等指導・支援事業） ・【令和3年度】中小企業等連携組織対策費事業（諸制度改正に伴う専門家派遣等事業）（全国中央会） ・事業承継・引継ぎ推進事業（事業承継トライアル実証事業）（補助金HP） ・【所得拡大促進税制】経営力向上に係る事業実施状況の報告 ・【令和3年度】小規模事業者対策推進等事業（伴走型小規模事業者支援推進事業）

2.取り組み内容 2.1 事前調査フェーズ

2.1.1 データの確認・リストの作成

検討対象のうち「優先度”高”」と設定した16制度について、制度の調査結果を下図に示します。「優先度”高”」の16制度は、すべて後述のデータモデリングへ反映いたしました。

【制度の調査結果】

制度概要			データモデリングへの統合状況	データの二次利用の可否	API	
優先度	予算事業名／補助金名	利用システム			提供状況	API取得情報
高01	【R1補正】持続化補助金（一般型）	jGrants	○	×	×※	-
高02	【R3当初】JAPANブランド育成支援等事業	jGrants	○	×	×※	-
高03	【R3当初】戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）	個別システム	○	×	×	-
高04	【3次補正】事業再構築補助金	jGrants（一部 個別システム）	○	×	×※	-
高05	【3次補正】ものづくり補助金	jGrants（一部 個別システム）	○	×	×※	-
高06	中小企業支援プラットフォーム事業（ミラサポplus）	個別システム	○	○	△	事業基本情報 事業財務情報 事業株主情報 事業役員情報 事業所情報
高07	【3次補正】事業承継・引継ぎ補助金	jGrants	○	×	×※	-
高08	【R3当初】事業承継・世代交代集中支援事業（事業承継補助金）	jGrants	○	×	×※	-
高09	【3次補正】持続化補助金（低感染リスク型ビジネス枠）	jGrants	○	×	×※	-
高10	【R3当初】ものづくり・商業・サービス高度連携促進事業費	jGrants	○	×	×※	-
高11	【R3当初】商業・サービス競争力強化連携支援事業（サビサポ事業）	jGrants	○	×	×※	-
高12	中小企業・小規模事業者ワンストップ総合支援事業（よろず支援拠点事業）	個別システム	○	×	×	-
高13	経営力向上計画の申請	個別システム	○	×	△	事業者情報 経営力向上計画申請書 事業分野 実施事項 試験調達 設備 不動産 ローカルベンチマーク 財務指標
高14	中小企業支援プラットフォーム事業（専門家派遣システム）	個別システム	○	×	×	-
高15	事業継続力強化計画の申請	個別システム	○	×	×	-
高16	商工会等の経営発達支援計画の認定申請	個別システム（予定）	○	×	×	-

優先度”高”を
データモデリングに活用

2.1.1 データの確認・リストの作成

政府CIOポータル（2021年9月時点）標準ガイドライン群「行政サービス・データ連携モデル 申請・届出データモデル（β版）」、デジタル庁「jGrants手続き別申請テンプレート」及び「優先度“高” 16制度の申請様式・画面」より抽出したデータ項目について、データクレンジング作業を実施しました。

下図に示す重複するデータ項目については、過度なクレンジングによる行き過ぎたデータ統合を抑制するため、マスタ情報としてデータを統合する“汎用データ”と、制度独自の個別情報を蓄積する“制度固有データ”の2種のデータ概念を用意し、データモデル作成を進めました。

【頻出データ項目（属性）の例】

カテゴリ	出現数	属性名	類似の属性1	類似の属性2
技術，知財など	9	技術（知的財産権）内容		
技術，知財など	5	技術名（知的財産権名含む）		
技術，知財など	5	知的財産権種類		
技術，知財など	3	技術導入経費総額		
技術，知財など	3	知的財産権区分		
技術，知財など	2	技術導入経費支払期日		
技術，知財など	2	技術導入経費支払方法		
技術，知財など	2	今後の事業化見通し		
技術，知財など	2	出願年月日		
技術，知財など	2	知的財産権許可年月日		
技術，知財など	2	知的財産権許可番号		
技術，知財など	2	知的財産権出願人		
技術，知財など	2	知的財産権出願番号		
技術，知財など	2	知的財産権審査請求日		
技術，知財など	2	知的財産権登録番号		

重複出現回数

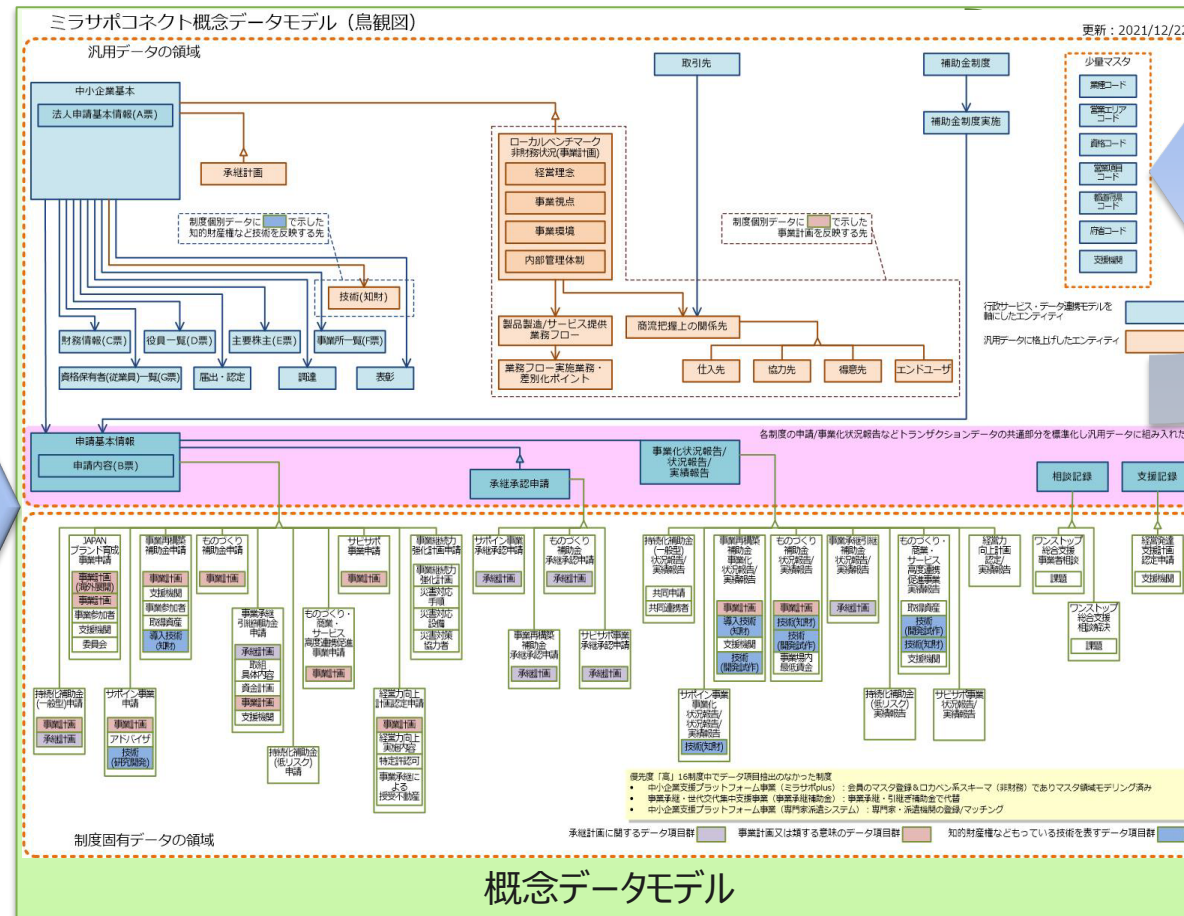
カテゴリ	出現数	属性名	類似の属性1	類似の属性2
事業計画	4	タスク名	事業化項目名	
事業計画	4	事業計画名	計画名	
事業計画	4	事業計画概要	研究開発概要	実施事業概要
事業計画	4	実施事業成果	本事業の成果	
事業計画	3	タスクの期間開始年月		
事業計画	3	タスクの期間終了年月		
事業計画	3	開発対象の具体的な内容（目標値等）	具体的事業内容	実施事業内容
事業計画	2	これまでの取組内容		
承継計画	4	承継内容		
承継計画	4	承継者氏名	承継者の氏名	
承継計画	3	承継者住所		
承継計画	4	承継理由	承継の理由	
承継計画	2	承継による事業変更内容		
承継計画	3	承継による変更事業実施体制	補助事業実施体制・内容変更事項	

重複出現回数

2.1.1 データの確認・リストの作成

マスタ情報としてデータを統合する“汎用データ”と、制度独自の個別情報を蓄積する“制度固有データ”の2種のデータ概念に基づいたデータモデリングを進めた結果、データ項目総数は1,245項目に集約されました。当該データ項目に基づきデータモデルの論理設計および物理設計を行いました。

【データモデルの概念図】



Step2

汎用データでは少量のマスタを作成し、
申請ごとの最新性を担保する

汎用データの領域：443項目

- ・ 申請毎に個別保管後、マスタを更新
- ・ 重複出現が多いデータ項目

制度固有データの領域：802項目

- ・ 更新毎に個別保管を実施
- ・ 重複出現が少ないデータ項目

Step1

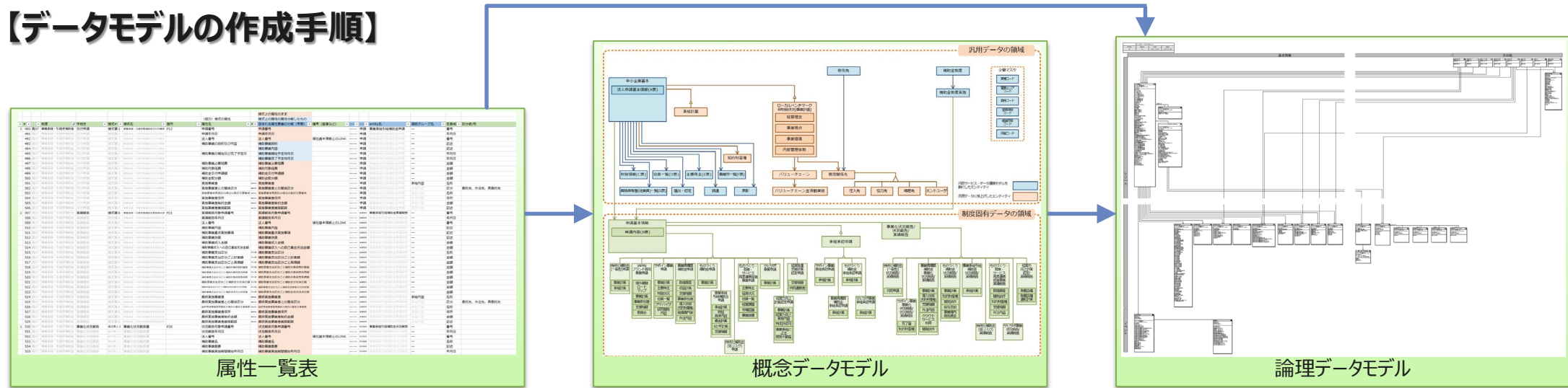
個別制度での
手続き実施
(源泉データの発生)

各データの
格納と蓄積

2.1.1 データの確認・リストの作成

集約したデータ項目（1,245項目）を「属性(データ項目)一覧表」に整理したうえで、「概念データモデル」および「論理データモデル」を作成しました。

【データモデルの作成手順】



■ 属性一覧表

- 「行政サービス・データ連携モデルの申請/届出情報」、「jGrantsの申請テンプレート」、「優先度”高”とした16制度の様式とシステム入力項目」から標準化されたデータ項目群を基に、有用と判断された1,245のデータ項目を一覧化したものです。
- 制度間で異なるデータ項目の表現を解消するために、類似内容ごとに項目カテゴリ分けを行いました。

■ 概念データモデル

- データモデル全体を“汎用データ”領域と“制度固有データ”領域に分け、2領域の関係と領域内での項目カテゴリの存在を記載しました。
- 汎用データ領域が「行政サービス・データ連携モデル」のデータ項目を軸とし、重点ユーザの関心が高い「ローカルベンチマーク非財務状況」、「承継計画」、「知的財産権」のデータ項目を含めて構成されていることを記載しました。

■ 論理データモデル

- 概念データモデルを基に、主キー/外部キーを判別し、データ項目の位置づけと関係性を表記しました。

2.取り組み内容 2.1 事前調査フェーズ

2.1.2 ユースケースとユーザーニーズの整理

経営課題の解決促進に向けた仕組みを検討する目的にて、中小企業、支援者、行政（中小企業庁等）のステークホルダーを対象に、ユーザーニーズのヒアリングを行いました。本ヒアリングにより得られたユーザーニーズは、次年度事業におけるユースケースの深堀検討に向けた参考情報としての活用を想定しています。

【ヒアリング結果】

#	課題（大項目）	課題（中項目）	ステークホルダーの声/ニーズ （ヒアリング等の調査より）	想定される提供価値（機能）	ステークホルダーごとのニーズ有無 凡例 ●：ファクト、○：仮説			優先順位 高
					中小企業	支援者	行政	
1	簡単に適切に補助金を受給/提供したい	手軽に受給したい	補助金申請に時間をかけたのに落ちてしまった。もっと簡単に申請したい。	・過去の申請事例、補助金虎の巻を活用することで解決	●	○	○	●
			補助金申請で何度も同じようなことを記入しなくてはいいけないので手間。	・申請形式・内容の統一化 ・ワンストップ実現 ・申請に必要なデータを外部から連携	●		○	●
			申請はデジタル化されているが、プロセスがデジタル化されていない。手続き全体を簡単にしたい。	・補助金全体のDX	○	○	●	●
			申請内容を読むだけでも大変。少しでも楽に審査したい。	・申請時に形式チェックする機能 ・審査AI	○		●	
		どうしたら受給できるか知りたい	補助金に落ちたが理由がわからず、改善できない。	・補助金審査後のフィードバック	●	○	○	
		わからないという状態を解消したい	補助金申請について誰に相談していいかわからなかった。ノウハウを手軽に知りたい。	・セミナー、ノウハウ動画などによる情報の公開 ・気軽に相談できるツール	●	○	●	
		問い合わせ・クレームを減らしたい	補助金について問い合わせ多くて対応が大変、クレームが沢山ある。	・わかりやすい補助金発信や手続きの簡易化 ・補助金虎の巻 ・チャットボット	○	○	●	●
		効果を数字で分析した上で給付を行いたい	補助金が採択企業の業績UPにつながっているかわからない。	・補助金効果分析ツール			●	
		適切な企業へ届けたい	大企業がOKの補助金等の場合、中小企業がハードルを感じて遠慮してしまうが、チャレンジしてほしい。	・動画等で補助金施策への想いを伝える	○	○	●	
		正確に給付したい	審査員によって点数の付け方に偏りが生じてしまうが、できる限り公平に審査したい。		○	○	●	

（次頁へ続く）

2.取り組み内容 2.1 事前調査フェーズ

2.1.2 ユースケースとユーザーニーズの整理

【ヒアリング結果】

(前頁からの続き)

#	課題（大項目）	課題（中項目）	ステークホルダーの声/ニーズ （ヒアリング等の調査より）	想定される提供価値（機能）	ステークホルダー別のニーズ有無 凡例 ●：ファクト、○：仮説			優先順位
					中小企業	支援者	行政	
2	前に進むきっかけを与えてくれる人と出会いたい	背中を押してくれる人と出会いたい	社員からの後ろ向きな意見もあり、デジタル導入に中々踏み出せない。 補助金を支援者の人に紹介してもらい、それがきっかけで新しいことへチャレンジできた。	・背中を押してもらえるコミュニティ ・新しいことに取り組める事業再構築補助金等の補助金	●	○		
		同じ境遇の仲間を見つけたい	経営者同士で一緒に良い社会を作っていきたい。 同じ志を持つ経営者とつながりたい。	・経営者マッチングコミュニティ	●			
3	ニーズに合った支援者（窓口）と出会いたい	自身の相談や状況にマッチした相談相手に出会いたい	創業時と悩みが変わったので相談先が分からなくなった。	・適切な支援者とのマッチング	●	○		
		経営者が正しく課題設定できるように支援したい	企業についての前情報がなく一度で深いところまでヒアリングできない。	・中小企業に関する必要な情報を支援者が閲覧できる機能（情報例：補助金の過去の申請情報、財務情報、他の支援者の支援情報等）	○	●	●	●
			経営者自身で正しく課題が設定できない。	・課題設定型の伴走支援	○	●	●	
		質の良い支援者を見つけたい	支援者の良し悪しがわからない。	・支援者の口コミ、過去の支援実績が見える	○		●	●
			様々な支援を各方面でやっているが、自分に合ったものを探せない。情報に辿り着けない。	・登録情報を元にした支援者とのマッチング ・コミュニティで適切な支援者を探すことのできる機能 ・支援者についてのわかりやすい情報発信	●	○	○	●
			相談に来てもらったが、自分の専門分野外で役に立たなかった。	（上記に加えて） ・支援者同士が情報を横連携できる機能 ・支援者コミュニティ（ナレッジシェア）	○	●		●
			いつも相談している支援者に聞いても適切な回答が得られない。	・支援者向けのセミナー	●	○		
		気軽に相談したい	対面相談の場合、かしこまった相談でないといけないと思いきや遠慮してしまう。	・チャットボット等で気軽に相談できる機能	●	○		
			相談したい悩みはあるが、初めて利用する有料サービスの場合効果がわからずハードルが高い。	・まずは気軽に相談できる仕組み ・実績のある人とのマッチング	●			

(次頁へ続く)

2.取り組み内容 2.1 事前調査フェーズ

2.1.2 ユースケースとユーザーニーズの整理

【ヒアリング結果】

(前頁からの続き)

#	課題（大項目）	課題（中項目）	ステークホルダーの声/ニーズ （ヒアリング等の調査より）	想定される提供価値（機能）	ステークホルダーごとのニーズ有無			優先順位
					凡例 ●：ファクト、○：仮説			
					中小企業	支援者	行政	
4	欲しい情報を効率的に入手したい	施策について分かりやすく情報を取得したい	補助金についていつ申請できるか分からない。カレンダーのようなものがあるといい。	・下記のようなわかりやすい情報発信 ・補助金の年間カレンダー ・登録情報を元に制度ナビの情報とマッチングする	●	○	○	●
			募集要項等を見て補助金申請したはずが誤ってしまったことがあった。	・下記のようなわかりやすい情報発信 ・動画での解説 ・補助金虎の巻	●	○	○	●
			施策に関する情報は様々あるがどれも辿り着くまでが複雑でわかりづらい。	・シンプルなUI・UX ・マッチングした情報のプッシュ通知	●	●	○	●
			必要な人に必要な情報が届いていない。	・わかりやすい情報発信に加えて、支援者からのプッシュ型情報発信も想定される ・支援者コミュニティ（ナレッジシェア） ・支援カルテの共有	○	○	●	●
		新しい取り組みをする際にわかりやすく情報を取得したい/やりたいことのやり方を知りたい	海外発送の情報について自身で目星をつけて調べるのが大変だった。	・支援者・有識者とのマッチング・相談	●			
			自社内での情報見える化をするためにデジタルツールを活用したいが、どのツール使えばいいのかわからない	・デジタルツールの簡単比較やマッチング	●			
		自分のアクセスしやすい方法で情報を取得したい	何か情報を検索する時も基本的にはPCは使わない。スマートフォンで見たい。	・スマートフォンでも見やすい作り	●	○		
			何か情報を取得するときに動画はよく見る。中小企業から相談を受けた時に動画を案内して解決することがよくある。	・動画での情報発信 ・動画へアクセスしやすい導線	●	●		

(次頁へ続く)

2.取り組み内容 2.1 事前調査フェーズ

2.1.2 ユースケースとユーザーニーズの整理

【ヒアリング結果】

(前頁からの続き)

#	課題（大項目）	課題（大項目）	ステークホルダーの声/ニーズ （ヒアリング等の調査より）	想定される提供価値（機能）	ステークホルダーごとのニーズ有無			優先順位
					凡例 ●：ファクト、○：仮説			
					中小企業	支援者	行政	
5	ビジネス拡大の糸口をつかめる価値	海外に進出したい	海外取引を増加させたいどこから始めたらいいかわからない。	・海外進出のための情報発信やコミュニティ	●			
		販路を開拓したい	新しい取引先を見つけるのが難しい。	・ビジネスマッチング ・中小企業から目星を付け取引先に提案できるコミュニティ等の仕組み	●			
		ビジネスに生きる情報を学びたい（トレンド・業界情報etc）	トレンドのテーマやのことが分からないため、知っておきたい（自社にメリットがある気がする）。	・テーマ中心型のコミュニティ・動画コンテンツ	●			
6	ビジネスマッチングできる価値	リソースをシェアしたい	本当は受けたい案件でも、リソースが限られていて受けられない。	・人材や設備のマッチング （一時的にリソースを増やせる仕組み） ・同業者のシェアリングコミュニティ	●			
		相手企業の情報をわかりやすく知りたい	新規で取引先（工場）を探したいと思っても情報に辿りつけない。HPがきちんと作られておらず、情報が分かりづらい。	・個社ごとの分かりやすいページ ・個社ページを様々な条件で検索できる機能	●	○		
7	人材確保・育成を進めたい	容易に良い人材確保をしたい	若手人材の採用or育成に苦戦。	・欲しい人材向けに自社情報を発信できる仕組み ・育成ノウハウの発信	●			
		後進を育成したい	ベテランのノウハウが継承されない。ノウハウの残し方がわからない。	・事例共有	●			
8	デジタル導入を普及させたい	デジタル化の有効性を気づかせたい	デジタル化は検討しているが、必要性がそこまで分からない。ツールもいっぱいあってどれを選べばいいかわからない。	・DXの有効性を理解できる情報発信、コミュニティ ・会社に合ったデジタル支援	●	○		

2.取り組み内容 2.1 事前調査フェーズ

2.1.3 技術の事前調査

将来のミラサポconnect活用可能性の1つとして、既存のコミュニティサイトを調査し、デザインの特徴やコミュニティ運営に係る工夫点を抽出いたしました。本調査により得られた情報は、次年度事業におけるコミュニティ組成・活性化に向けた参考情報としての活用を想定しています。

【コミュニティサイト調査結果】

サービス名	デザイン	参加のハードルを下げる取り組み	コミュニティを盛り上げる取り組み	コミュニティのクオリティを維持する取り組み
LEAP OVER	・HPに記載されている情報が少ないのでサービス・プロジェクト内容が掴みにくい ・自治体申込フォームがGoogleフォームであり、独自フォームではない ・募集枠が黒で分かりづらい	・アイデアレベルのものでも応募ができる ・複数のアイデアを応募することができる	-	・メンター勢の充実 ・プログラム最終月の4ヶ月目に成果報告として最終プレゼンテーションを設けている
Tailor Works	・HPに情報が沢山記載されているが一覧性が高い ・メニューバーのところがレスポンシブルデザインに適用しきれていない	・プラットフォームの導入から運用、活用まで伴走型のコミュニティ運用支援サービスがあり、Tailor Works担当者が運営担当者のサポートをする ・イベントページでは登録不要で閲覧することができる	・コミュニケーション機能が豊富に搭載されているので、メンバー間のコミュニケーションが活発になる ・マッチング機能により、企業と地域との出会いを加速させる。	・コミュニティ活動レポートや活動状況を担当者が報告し、運営担当者が定性・定量的なデータ把握のサポートを行う ・承認制コミュニティが作成できる
Quora	・アカウント登録しないとサービス詳細が分からない。 ・初見ユーザーには使い方が分かりづらい。 ・メニューアイコンに文字が記載されておらず分かりづらい。	・質問、回答ともに無料で参加できる。	・希望する人物に回答リクエストを送ることができる。 ・世界中の優れた質問・回答を集めたムック本が日本で発売。 ・Quoraの日本コミュニティ担当者が、海外の質問・回答を翻訳して日本版にコンテンツ提供をしている。	・投稿された質問を後から誰でも編集が可能。 ・良質な質問の投稿者に対して金銭的なインセンティブが用意されている。 ・機械学習によってパーソナライズされたニュースフィード表示がされる。 ・偽アカウントの報告システムや本人確認の仕組みがある。

(次頁へ続く)

2.取り組み内容 2.1 事前調査フェーズ

2.1.3 技術の事前調査

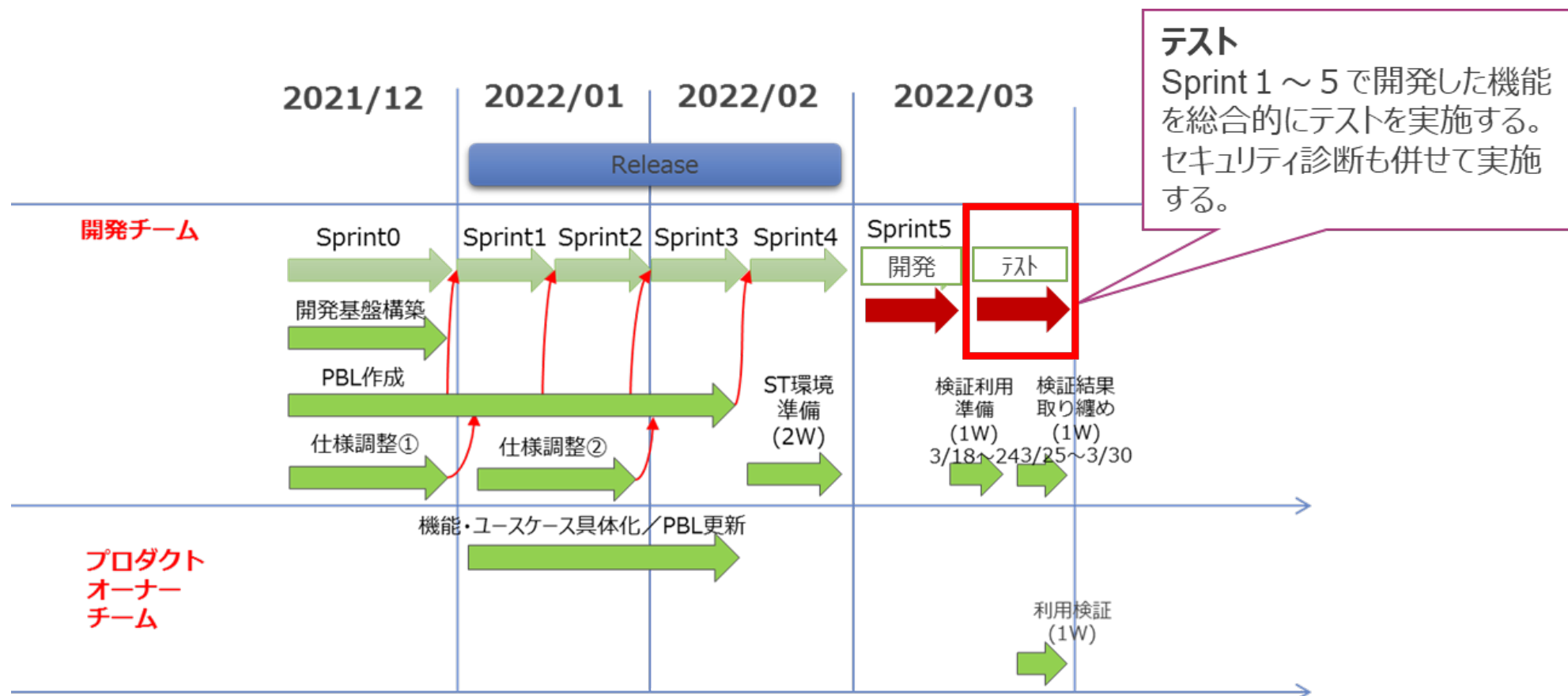
【コミュニティサイト調査結果】

(前頁からの続き)

サービス名	主な機能	特徴的な機能	データの種類	データの使い方
LEAP OVER	-	-	-	-
Tailor Works	・オンラインイベント開催機能 ・グループチャット、ビデオ通話機能 ・情報共有機能（マガジン等） ・ビジネスマッチング機能 ・ダッシュボード機能（コミュニティの活動データを可視化・蓄積） ・データ分析機能	・課題抽出bot機能 ・バーチャルスペース機能 ・専門コーディネーターによる運営支援サービス	ダッシュボードで一元管理 「コミュニティ参加者データ」 ・氏名 ・参加日 ・所属部署 ※承認制コミュニティの場合は申請者データも確認可能 「コンテンツデータ」 ・配信予定/配信済イベント ・情報マガジン ・イベントの視聴データ ・相談への回答内容 ・閲覧数 ・反応数 ・チャットルームの参加人数	・メンバー分析 メンバー毎の活動指数を計測。閲覧している情報や参加したイベントなど多角的な分析により、メンバーの指向性を把握することが可能。ロイヤリティ向上の施策作りに役立つ ・コミュニティ分析 コミュニティの様々な活動データを元に、コミュニティ全体の活性度についてもスコアリング&可視化。活性化のための施策づくりに役立つデータを提供する。
Quora	・コンテンツを質問 ・コンテンツに回答 ・コンテンツの閲覧 ・タイムライン（フィード）	・良質な質問のダイジェストメール配信 ・統計データの参照 ・スペース機能（文章投稿）	・質問とそれに対する回答 ・ユーザー情報	・機械学習によるパーソナライズ。 ・機械学習による的確な回答の表示。 ・関連広告の表示。 ・優良ユーザーで収益化している場合は、トラフィックが内部からか外部からかが分かる。

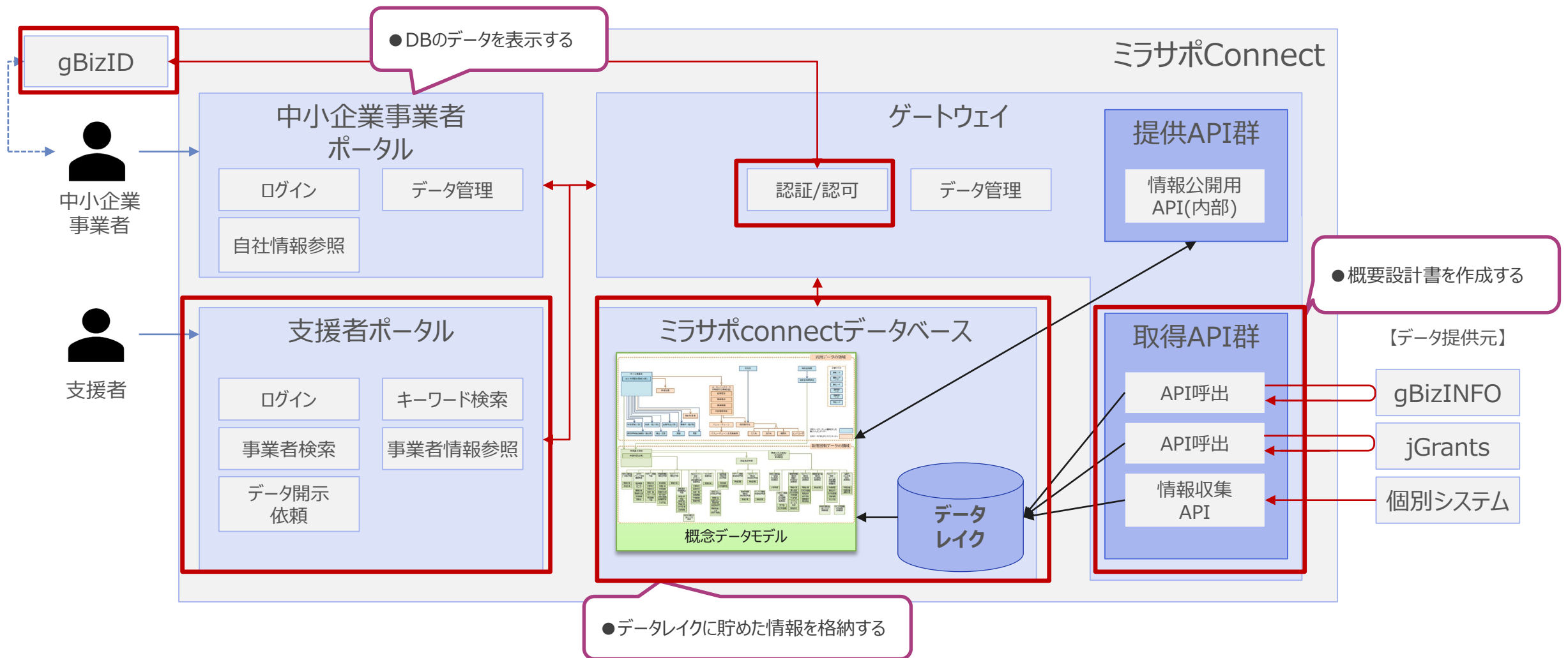
2.2 要件精査・スコープ決定フェーズ

本事業では、開発手法としてアジャイル開発を採用いたしました。アジャイル開発着手に向け、“Sprint0”として開発基盤の構築やプロダクトバックログ（以下「PBL」と記載する）を作成のうえ、2022年1月～3月の期間にて、“Sprint1”～“Sprint5”を実施いたしました。



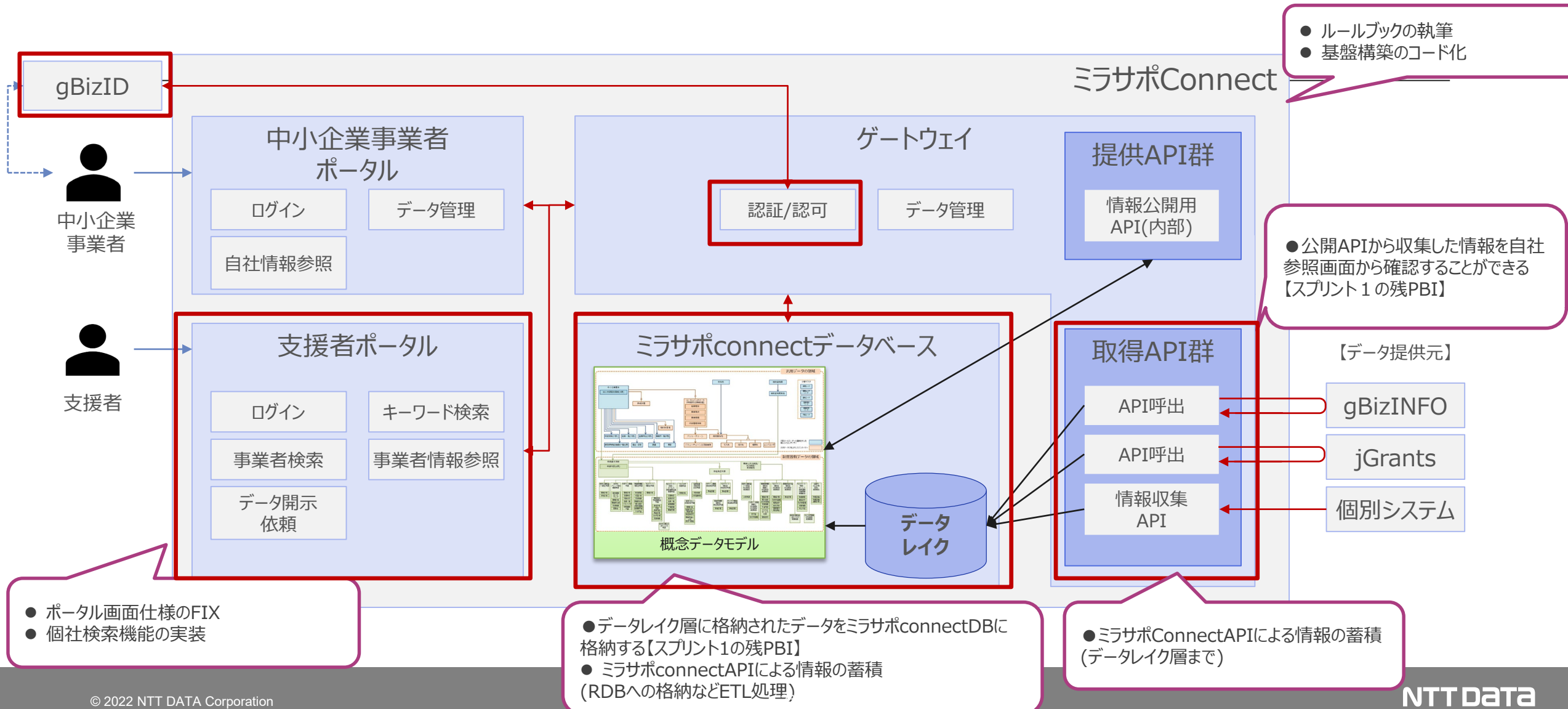
2.2 要件精査・スコープ決定フェーズ

“Sprint1”の主要な実現内容は下記の通りです。



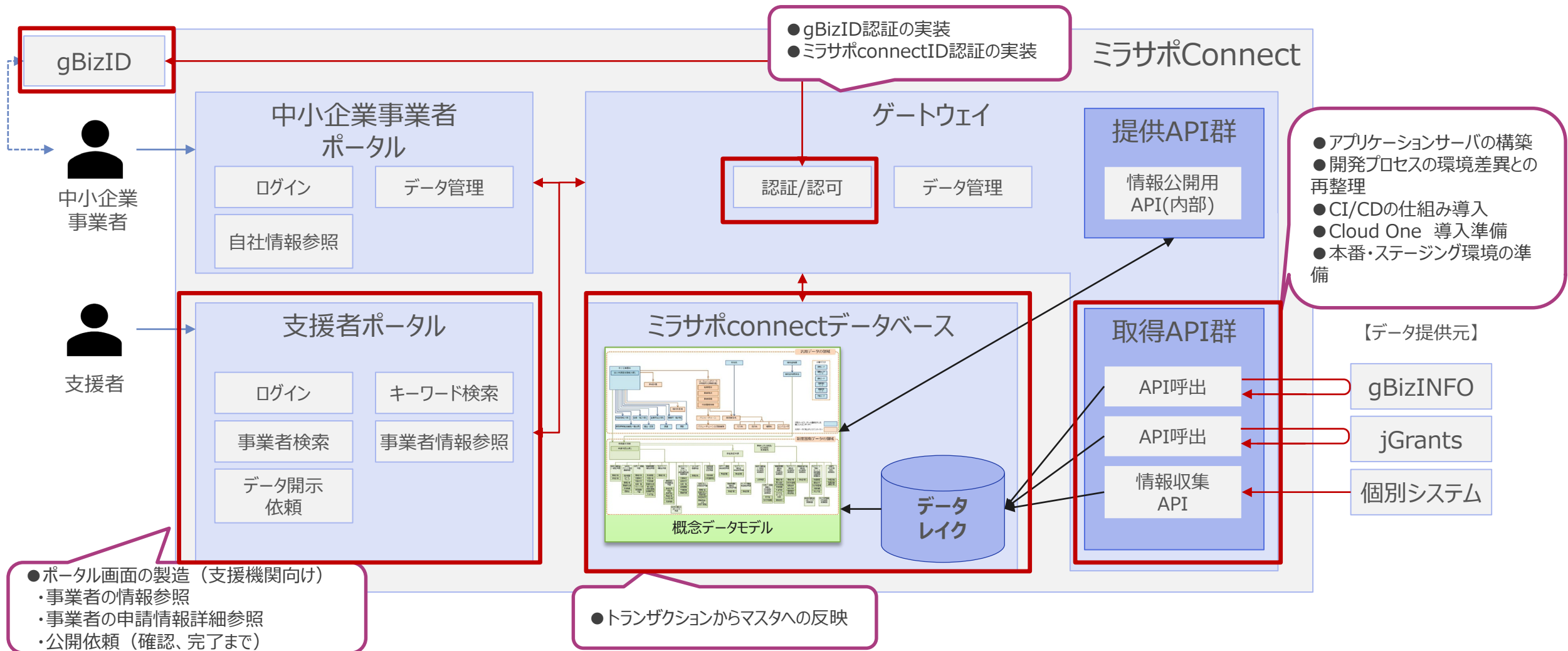
2.2 要件精査・スコープ決定フェーズ

“Sprint2”の主要な実現内容は下記の通りです。



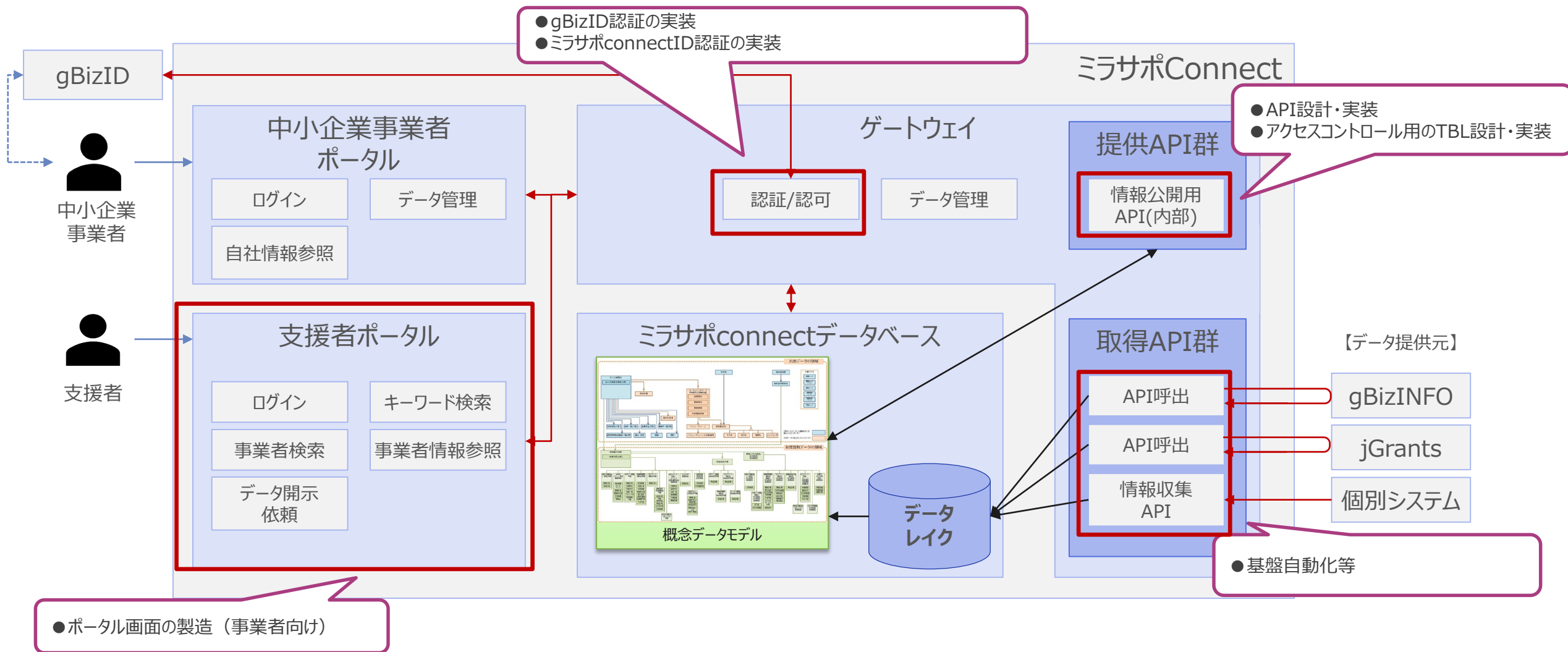
2.2 要件精査・スコープ決定フェーズ

“Sprint3”の主要な実現内容は下記の通りです。



2.2 要件精査・スコープ決定フェーズ

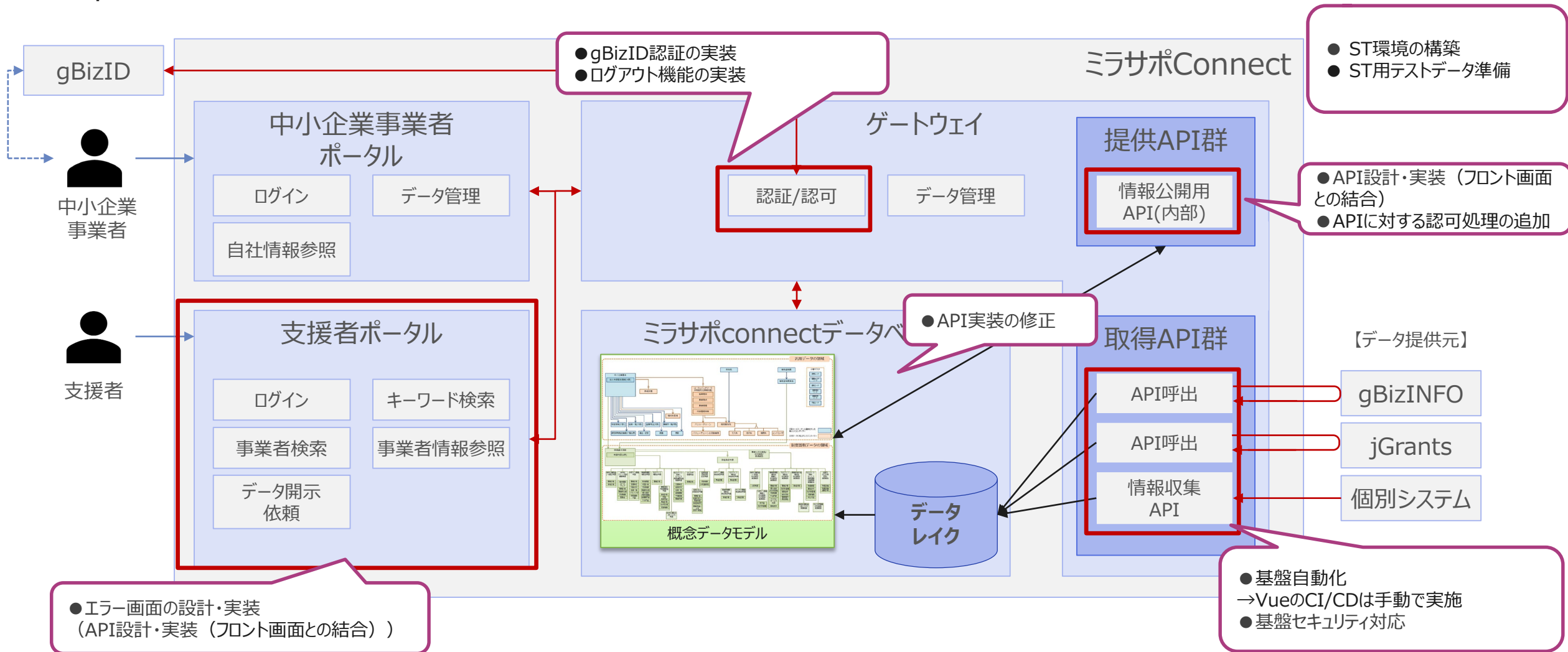
“Sprint4”の主要な実現内容は下記の通りです。



2.2 要件精査・スコープ決定フェーズ

“Sprint5”の主要な実現内容は下記の通りです。

“Sprint5”では、第三者によるセキュリティ診断および中小企業庁様による利用検証も実施いたしました。



2.3 プロトタイプ構築フェーズ（全体像）

「プロトタイプ構築」では、中小企業庁様と合意したスコープに基づき、ミラサポconnectデータベース、APIゲートウェイ機能（公開API・取得API）、データの開示範囲・更新に関する管理機能（認証・認可機能）、ポータル（事業者用・支援者用）を構築いたしました。構築したプロトタイプのシステムアーキテクチャ図を以下に示します。



2.3 プロトタイプ構築フェーズ（本番アカウント）

構築したプロトタイプ（本番アカウント）のアーキテクチャ図を以下に示します。



2.3 プロトタイプ構築フェーズ（開発アカウント）

構築したプロトタイプ（開発アカウント）のアーキテクチャ図を以下に示します。



2.3.1 ミラサポconnectデータベース

プロトタイプ構築では、事前調査フェーズのデータモデリング検討結果を踏まえた「ミラサポconnectデータベース」を構築し、APIゲートウェイ機能を用いて取得した情報を格納する仕組み、データベースに格納された情報をポータル上で確認できる仕組みを開発しました。

実現機能

- **RDB（リレーショナルデータベース）の構築**
 - データ調査/モデリング工程で定義したデータモデルに沿ったテーブル群の整備
- **データ蓄積機能**
 - 各連携先から収集した「申請」単位のデータを蓄積する機能
 - ・テキストデータ：RDB格納
 - ・受信データ／添付ファイル：データレイク格納
- **事業者最新情報（マスタ）更新機能**
 - 収集したデータから必要に応じて事業者の最新情報を更新する機能
- **アクセスコントロール機能**
 - データの開示範囲を制御する機能

2.3.2 APIゲートウェイ機能（公開API・取得API）

プロトタイプ構築では、情報公開に向けたAPIゲートウェイ機能および外部システムからの情報取得に向けたAPIゲートウェイ機能を開発し、API定義書を作成しました。

実現機能

- **公開API群**
 - ミラサポconnectデータベースに蓄積されたデータを操作するための機能
(検索、参照、データ開示依頼、データ開示設定等)
- **取得API群**
 - gBiizINFO、jGrantsの公開APIを呼び出し、事業者の情報を取得し、ミラサポconnectデータベース向けに編集のうえ、格納する機能
- **ミラサポconnect API**
 - 外部システムがミラサポconnectデータベースへ情報を送信するための機能
 - ミラサポconnectデータベースで定義したすべてのデータ項目と添付ファイルを送信可能

2.3.3 データの開示範囲・更新に関する管理機能（認証/認可機能）

プロトタイプ構築では、データの開示範囲・更新に関する管理機能（認証/認可機能）として、gBizID認証およびミラサポconnect ID認証の仕組みを開発しました。

実現機能

- **gBizID認証機能**

→ 事業者が自社情報を参照したり、自社情報の開示範囲を設定するためのポータルへのログイン機能として、gBizID認証を利用可能とする機能
（本事業の開発対象範囲はgBizID（プライム）とし、個人事業主への対応は令和4年度以降に検討）

- **ミラサポconnect独自認証機能**

→ ミラサポconnectに蓄積された情報を検索・参照するためのポータルへのログイン機能として、gBizIDを所持しない利用者を想定したミラサポconnect独自のID認証を実装

2.3.4 ポータル（事業者用/支援者用）

プロトタイプ構築では、ユーザーがアクセスするポータル機能として、事業者用ポータルおよび支援者用ポータルを開発しました。

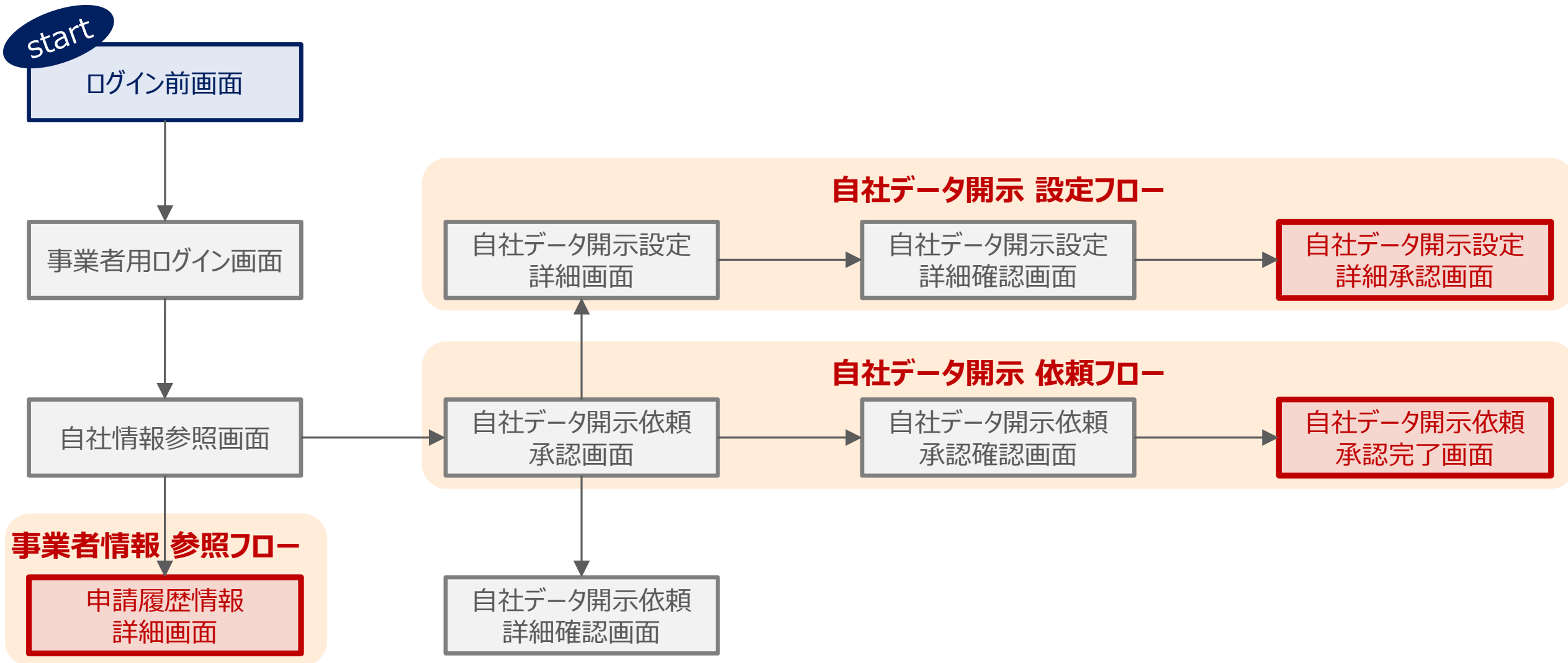


構築ポータル	操作可能項目
事業者用ポータル	・ 自社情報確認 ・ 自社データ開示依頼の認証/認可
支援者用ポータル	・ 事業者検索 ・ 事業者データ開示依頼

2.3.4.1 ポータル（事業者用画面推移）

事業者用ポータルの画面構成は下記のとおりです。

また、事業者用ポータル画面をP.35～P.40に記載いたします。



2.3.4.1 ポータル（事業者用画面推移）

事業者用ポータルのログイン前画面、事業者用ログイン画面は下記のとおりです。

ログイン前画面

事業者用ログイン画面

ミラサポconnect

中小企業・小規模事業者の方はこちら

**gBiz
ID** GビズIDでログインする

GビズIDをお持ちでない方は、GビズIDを取得ください。
[>GビズIDを取得する](#)

支援機関の方はこちら

ミラサポコネクトIDでログインする

ミラサポコネクトIDをお持ちでない方は、ミラサポコネクトIDを取得ください。
[>ミラサポコネクトIDを取得する](#)

gBizID

🔑 ログイン / Login

アカウントID / Account
ID
(メールアドレス /
Email)

パスワード / Password

ログイン / Login

🔗 パスワードを忘れた方はこちら / [Forgot password?](#)
🔗 アカウントを持っていない方はこちら / [Don't have an account? Sign up.](#)

📶 ページ先頭へ / [Back to top](#)

© 2019 Digital Agency, Government of Japan

2.3.4.1 ポータル（事業者用画面推移）

事業者用ポータルの自社情報参照画面、申請履歴情報詳細画面は下記のとおりです。

自社情報参照画面

■ 自社最新情報	
カテゴリ名	
へ 基本情報	
データ項目	値
法人番号	
法人名称	
法人カナ名称	
法人英記名称	
事業概要	
本社住所都道府県コード	
本社住所町名（郡・市区町村～町名）	
法人代表者漢字氏名（姓）	
法人代表者カナ氏名（姓）	
法人代表者漢字氏名（名）	
Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.	

申請履歴情報
詳細画面

■ 申請履歴情報			
	制度・申請名	登録日	参照
1	制度名	2000/02/22	詳細
2	制度名	2000/02/22	詳細
3	制度名	2000/02/22	詳細
4	制度名	2000/02/22	詳細
5	制度名	2000/02/22	詳細
6	制度名	2000/02/22	詳細
7	制度名	2000/02/22	詳細
8	制度名	2000/02/22	詳細
9	制度名	2000/02/22	詳細
10	制度名	2000/02/22	詳細
Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.			

2.3.4.1 ポータル（事業者用画面推移）

事業者用ポータルの自社データ開示依頼承認画面、自社データ開示依頼承認確認画面は下記のとおりです。

自社データ開示依頼
承認画面

自社情報参照
 >
 データ開示依頼承認

データ開示依頼承認

■データ開示依頼の承認設定について
 利用ユーザに自社情報を開示する場合、データ開示依頼に対する承認が必要です。
 承認設定（承認、一部のみ承認、拒否）を設定ください。一部のみ承認では、開示する情報を詳細設定できます。

	利用ユーザ	依頼日	承認日	直近の承認設定	承認設定
1	依頼詳細	2022/03/25	2022/03/25	承認	承認 一部のみ承認 拒否

■承認設定履歴
 データ開示承認設定済みの利用ユーザについて、データ開示状態を再設定（承認、一部のみ承認、拒否）できます。

	利用ユーザ	依頼日	承認日	直近の承認設定	承認設定
	対象データ無し				

自社データ開示依頼
承認確認画面

自社情報参照
 >
 データ開示依頼承認
 >
 データ開示依頼者情報

データ開示依頼 詳細確認

氏名

連絡先

データ利用用途

メッセージ

戻る

2.3.4.1 ポータル（事業者用画面推移）

事業者用ポータルの自社データ開示依頼詳細画面、自社データ開示依頼承認完了画面は下記のとおりです。

自社データ開示依頼 承認完了画面

自社情報参照 > データ開示依頼承認 > データ開示依頼承認完了

データ開示依頼承認

データ開示の承認設定が完了しました。

[データ開示依頼承認画面に戻る](#)

自社データ開示依頼 詳細確認画面

自社情報参照 > データ開示依頼承認 > データ開示依頼詳細確認

データ開示依頼 詳細確認

氏名	
連絡先	
データ利用用途	
メッセージ	

[戻る](#)

2.取り組み内容 2.3 プロトタイプ構築フェーズ

2.3.4.1 ポータル（事業者用画面推移）

事業者用ポータルの自社データ開示設定詳細画面、自社データ開示設定詳細確認画面は下記のとおりです。

自社データ開示設定
詳細画面

ミラサバconnect

ログアウト

自社情報参照 > データ開示依頼承認 > データ開示詳細設定

データ開示詳細設定

■ 自社最新情報

① 開示・非開示を設定できない項目について

各カテゴリにおける自社情報を確認したい場合は、左メニューの自社情報参照ボタンよりご確認ください。

会社名:

カテゴリ	項目例	開示	非開示
基本情報		☐	☐
		☒	☐
事業・営業情報		☒	☐
承認情報		☒	☐
財務情報		☒	☐
事業計画		☒	☐

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

自社データ開示設定
詳細確認画面

ミラサポconnect

ログアウト

制度・申請名	登録日	自社最新情報以外の申請内容											
		事業計画				財務諸表		業績報告		事業化報告		その他	
		開示	非開示	開示	非開示	開示	非開示	開示	非開示	開示	非開示	開示	非開示
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐
制度名	2000/02/22	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐

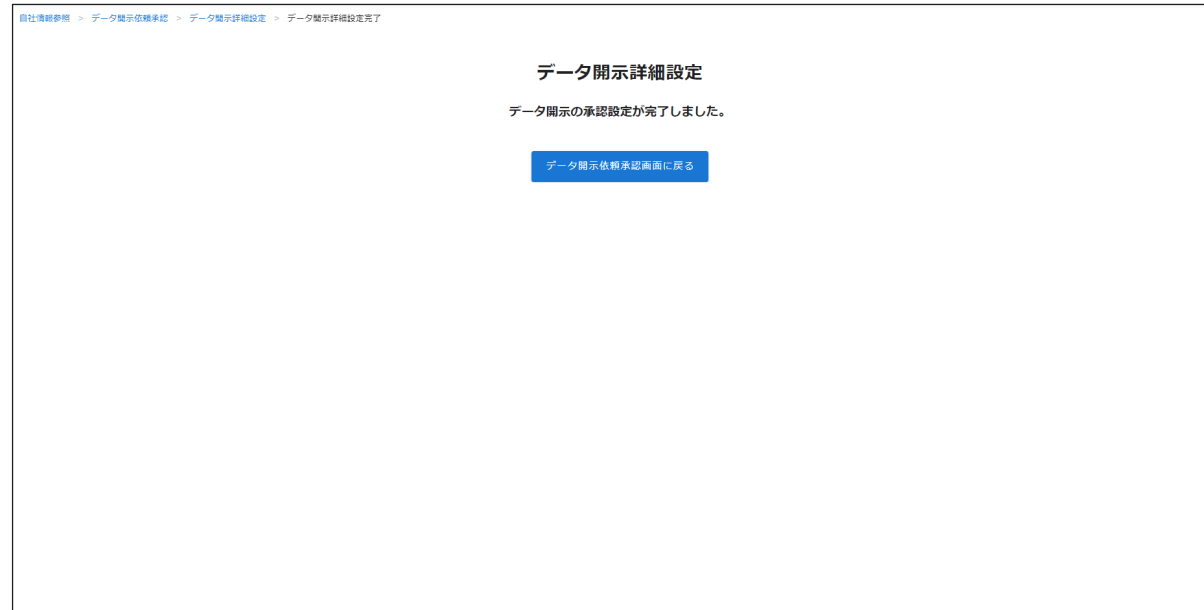
戻る

設定

2.3.4.1 ポータル（事業者用画面推移）

事業者用ポータルの自社データ開示設定詳細承認画面は下記のとおりです。

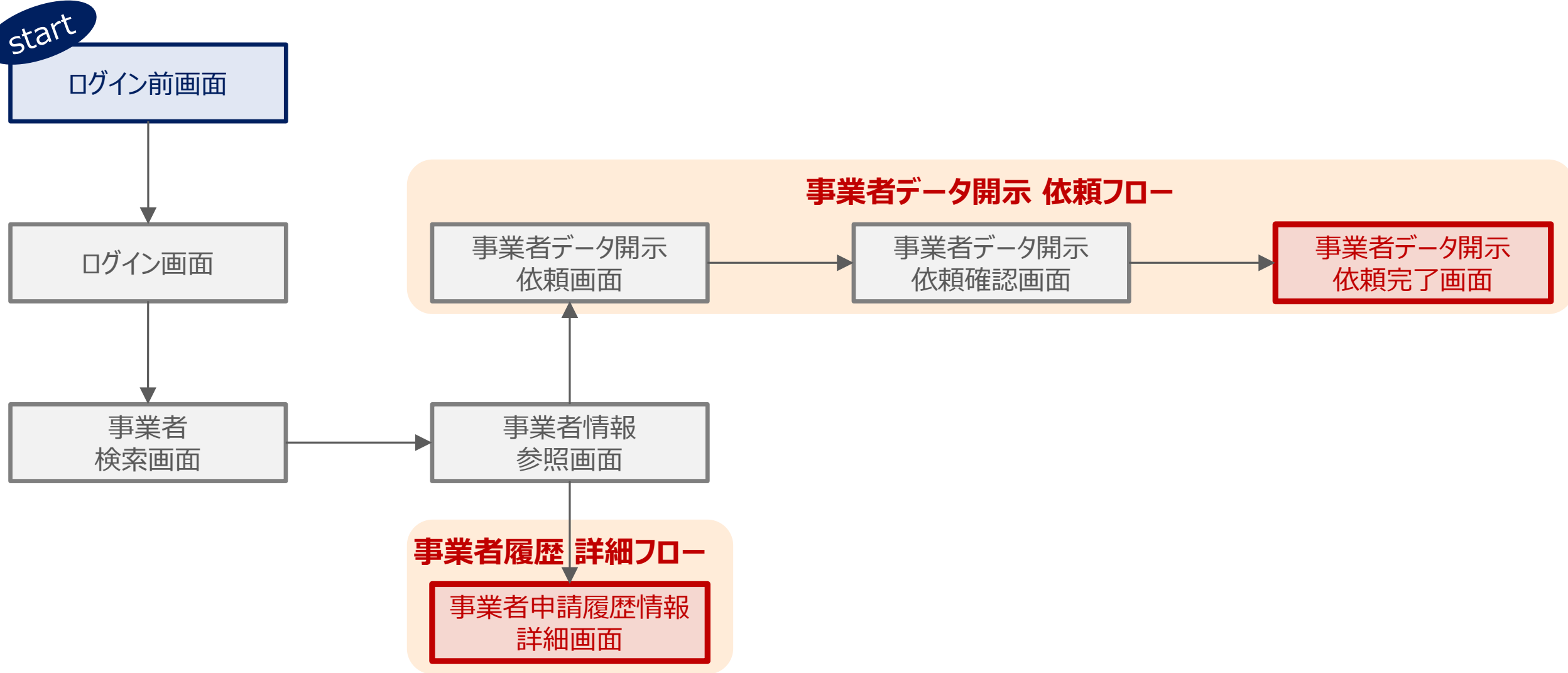
自社データ開示設定 詳細承認画面



2.3.4.2 ポータル（支援者用画面推移）

支援者用ポータルの画面構成は下記のとおりです。

また、事業者用ポータル画面をP.42～P.45に記載いたします。



2.3.4.2 ポータル（支援者用画面推移）

支援者用ポータルのログイン前画面、支援者用ログイン画面は下記のとおりです。

ログイン前画面

ミラサポconnect

中小企業・小規模事業者の方はこちら

**gBiz
ID** GビズIDでログインする

GビズIDをお持ちでない方は、GビズIDを取得ください。

[>GビズIDを取得する](#)

支援機関の方はこちら

ミラサポコネクトIDでログインする

ミラサポコネクトIDをお持ちでない方は、ミラサポコネクトIDを取得ください。

[>ミラサポコネクトIDを取得する](#)

ログイン画面

Sign in with your username and password

Username

Password

[Forgot your password?](#)

Sign in

[Need an account? Sign up](#)

※ 令和4年度以降に日本語対応を検討

2.3.4.2 ポータル（支援者用画面推移）

支援者用ポータルの事業者検索画面、申請履歴情報詳細画面は下記のとおりです。

事業者 検索画面

The screenshot shows the 'Business Search' (事業者検索) page. The header includes a menu icon, the title 'ミラサバconnect', and user information 'ID: NTTデータ アカウント名: エヌ・ティ・ティ・データ' with a 'Logout' (ログアウト) button. The main content area has a search title and three input methods: 'Search by Company Name' (社名から探す), 'Search by Business Overview' (事業概要から探す), and 'Search by Conditions' (条件から探す). The 'Search by Conditions' section includes dropdowns for 'Prefecture' (都道府県) and 'City/Town/Village' (市区町村), a text input for 'Subsidy Name' (補助金名), and a 'Search' (検索) button. A 'Clear Search Conditions' (検索条件クリア) button is also present.

事業者情報 参照画面

The screenshot shows the 'Business Information Reference' (事業者情報参照) page. The header is similar to the search page. The main content area has a title 'Business Information' (事業者情報) and a 'Data Display Dependency' (データ開示依頼) button. Below the title is a section for 'Business Name' (事業者名) with a redacted input field. A section titled 'Business Latest Information' (事業者最新情報) includes a 'Category' (カテゴリ) dropdown. A table with the title 'Basic Information' (基本情報) lists various data items (法人番号, 法人名称, 法人カナ名称, 法人英記名称) with corresponding redacted values. The footer contains the copyright notice: 'Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.'

2.取り組み内容 2.3 プロトタイプ構築フェーズ

2.3.4.2 ポータル（支援者用画面推移）

支援者用ポータルの事業者申請履歴情報詳細画面、データ開示依頼画面は下記のとおりです。

事業者申請履歴情報
詳細画面

ミラサバconnect

ID: NTTデータ
アカウント名: エヌ・ティ・ティ データ

ログアウト

申請履歴情報 詳細

制度

登録日

■詳細

カテゴリ名

基本情報

データ項目

法人番号

法人名称

法人カナ名称

法人英記名称

事業概要

本社住所都道府県コード

本社住所町名（都・市区町村～町名）

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

事業者データ
開示依頼画面

ミラサバconnect

ID: NTTデータ
アカウント名: エヌ・ティ・ティ データ

ログアウト

事業者検索 > 事業者情報参照 > データ開示依頼

データ開示依頼

氏名

連絡先

☒ 経営支援のため

データ利用用途

☐ その他

その他

テキストボックス
経営支援のため、データの公開を依頼いたします。

メッセージ

戻る

開示依頼

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

2.3.4.2 ポータル（支援者用画面推移）

支援者用ポータルのデータ開示依頼確認画面、データ開示依頼完了画面は下記のとおりです。

事業者データ開示依頼 確認画面

The screenshot shows the 'データ開示依頼' (Data Disclosure Request) confirmation screen. It contains the following fields:

- 氏名 (Name): [Redacted]
- 連絡先 (Contact): [Redacted]
- データ利用用途 (Data Usage Purpose): ☒ 経営支援のため (For business support), ☐ その他 (Other)
- メッセージ (Message): テキストボックス、経営支援のため (Text box, For business support)

A confirmation dialog box is displayed in the center: 'この内容でデータ開示依頼を行いますか？' (Do you wish to proceed with the data disclosure request with this content?). It has 'はい' (Yes) and 'いいえ' (No) buttons.

At the bottom, there are two buttons: '戻る' (Back) and '開示依頼' (Request Disclosure).

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

事業者データ開示依頼 完了画面

The screenshot shows the 'データ開示依頼' (Data Disclosure Request) completed screen. It contains the following fields:

- 氏名 (Name): [Redacted]
- 連絡先 (Contact): [Redacted]
- データ利用用途 (Data Usage Purpose): 経営支援のため (For business support)
- メッセージ (Message): 経営支援のため、データの開示を依頼いたします。 (For business support, I request the disclosure of data.)

A '戻る' (Back) button is located at the bottom right.

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

2.4 データの一元化に向けた統一基準について

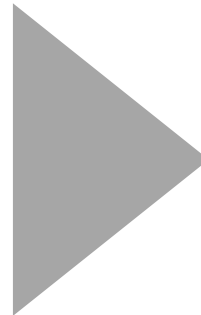
ITを活用した中小企業の経営課題解決を促進していくためには、中小企業や支援者、行政サービス（制度等）に関する情報の蓄積及び活用が必須となります。

本事業では、行政サービス（制度等）に関する情報の集約・蓄積に向け、「データ利用時の統一基準」を策定するために、ミラサポconnect利用時のルールブックを作成しました。

As-Is

■ 中小企業庁が保有するデータの問題点

- ✓ 電子化が未実施の所管制度が存在する
電子化済の制度において、情報の集約に向けたデータ連携の仕組みが未実装である
- ✓ 申請情報の一部は、機械判読可能な形で情報が保存されていない
- ✓ 所管する担当により、制度ごとのデータ項目にバラつきがある
- ✓ 申請情報等のデータを二次利用できない



Action

- **ルールブックの策定**
- 申請電子化の推進
- 情報取得用APIの実装
- データ二次利用に向けた規約等の改定

To-Be

■ ITを活用した中小企業支援の ワンストップサービスの実現

- ✓ EBPMの推進による効果的な施策・制度の策定
- ✓ PUSH型の情報提供による中小企業支援に関する施策・制度の認知度の向上
- ✓ 申請等の手続き簡素化による中小企業事業者の利便性の向上
- ✓ 民間による支援サービスと行政サービスの組み合わせによる中小企業支援の質と量の向上

2.4 データの一元化に向けた統一基準について

本事業にて策定した「ミラサポconnectルールブック」の概要を以下に示します。

項番	目次	概要
1	サマリー	ルールブックを作成し、既存システムや新規システムが従うべきシステム設計等のルールを記載。
2	中小企業庁DXビジョン	「ビッグデータを活用して伸ばしたい中小企業を徹底支援する」というビジョン達成のため、中所企業庁が持つ情報を一元化し、ニーズの高いユースケースを検討する旨を記載。
3	DXビジョン達成に向けたデータ利活用や連携を前提としたシステム設計の重要性	データの一元化に向けた課題、及び課題解決に向けた取組の方向性について記載。
4	データ利活用・データ連携の意義（原課視点）	中小企業庁のデータを一元化、および利活用することのメリットについて記載。
5	政府全体方針（参考）	閣議決定文書や政府全体方針から見た中小企業庁DXプロジェクトの重要性について記載。
6	ミラサポconnectへのデータ連携概要	GbizID、Jグランツ等の共通基盤の活用について記載、APIを通じたデータ連携等、ミラサポconnectへのデータ連携に向けた実施項目について記載。
7	共通基盤（Jグランツ、Gbizフォーム）からミラサポconnectへのデータ連携	共通基盤（Jグランツ、Gbizフォーム）を利用している制度における、ミラサポconnectへのデータ連携に向けた対応について記載。
8	制度個別システムからミラサポconnectへのデータ連携	個別システムを利用しており、情報公開APIを具備している制度におけるミラサポconnectへのデータ連携に向けた対応について記載。
9	ワンスオンリーを実現するための制度個別システム構築	ワンスオンリー実現に向け最新の事業所情報を取得可能にするための、公開APIの概要と留意点について記載。
10	中小企業庁全体のデータ利活用（PUSH型の情報発信、EBPM等）のために取得を依頼したいデータ項目	ミラサポconnectが収集するデータ項目の内容と仕様について記載。
11	データの二次利用に関する同意取得	中小企業・小規模事業者データの二次利用における同意取得について記載。
12	相談先・問い合わせ先・参考リンク等	不明点等の問い合わせ先について記載。

3.課題解決事例の成果

3. 課題解決事例の成果

中小企業の経営課題解決促進に向けて、本事業において抽出された課題、取組内容および成果を以下に示します。

課題	取組内容	成果
✓ 電子化済の制度において、情報の集約に向けたデータ連携の仕組みが未実装である	✓ ミラサポconnectのプロトタイプとして外部システムからの情報取得に向けたAPIゲートウェイ機能を実装	✓ ミラサポconnectにおいて、標準APIを整備したことにより、EBPM等に必要なデータの集約・蓄積を促進
✓ 申請情報の一部は、機械判読可能な形で情報が保存されていない。	✓ ミラサポconnectへ連携された情報をポータル上で検索・照会する仕組みを実装	✓ ミラサポconnect上で他システムの情報を参照できることにより、中小企業関連データの利活用を促進
✓ 所管する担当により、制度ごとのデータ項目にバラつきがある	✓ ミラサポconnectとのデータ連携に係るAPI定義書を策定し、データ項目の標準化に向けた指標を作成	✓ 制度ごとのデータのバラつきが是正されることで、ITを活用したデータ分析や利活用を促進
✓ 申請情報等のデータを二次利用できない	✓ ミラサポconnectルールブックの策定	✓ データの二次利用に向けた規約を整理し、公募要領等の改定を促進
✓ 官民連携の促進に向け、収集・蓄積した各データの開示範囲を定める必要がある	✓ アクセスコントロール機能の実装	✓ ミラサポconnect上のアクセスコントロール機能にて、利用者が自身が登録・提供したデータの開示範囲を柔軟に設定することを促進

4.次年度に向けたプロトタイプおよび その構築体制の改善点

4. 次年度に向けたプロトタイプおよびその構築体制の改善点

次年度事業では、中小企業経営者自身の課題解決や新たな政策立案等に役立つプラットフォームの整備を検討すべく、さらなる官民連携の促進やコミュニティ組成・活性化が求められます。次年度に向けたプロトタイプおよびその構築体制の改善点について以下に整理いたしました。

実施項目		詳細
プロトタイプ	✓ ユースケースの深堀検討	✓ 中小企業経営者、支援機関（商工会、商工会議所、よろず支援拠点、認定支援機関、金融機関等）、行政機関（中小企業庁及び経済産業省地方局職員）、委託者、EBPM分析実施者、システム管理者を念頭に置き、中小企業庁が保有するデータを用いて中小企業の課題を解決でき、かつ需要が高いユースケースを検討し、仕組みとして実装する
	✓ API連携の拡張	✓ 中小企業庁が保有するデータを用いた中小企業の課題解決促進に向け、中小企業庁が所管する制度情報の集約・蓄積、中小企業支援に資する民間サービスとの連携等、本事業で整備したAPIゲートウェイ機能を拡張することにより、多数のシステム・サービスとのデータ連携を図り、ミラサポconnectデータベースを拡充する
構築体制	✓ UI/UXを重視した体制	✓ 中小企業の課題解決や新たな政策立案に役立つ仕組みの実現に向け、必要な外部有識者や関係者と随時、意見交換ができる体制を確保するとともに、ユーザーに優しいユーザーインターフェースや、コミュニティの効果的な組成に役立つシステムデザインに長けた体制を確保する
	✓ アジャイル開発によるトライ＆エラーの検証	✓ 多数のステークホルダーと連携・協議しながらプロトタイプの改善を図るため、相手にあわせて柔軟に仕様の変更や調整を行うことができる体制を確保する ✓ トライ＆エラーによるプロトタイプの改善・検証を繰り返すため、十分なサポート体制を確保する

